

検証 QR は
手書きでは
作れません

湿気にさらされた時間は、足し算でしか分かりません

MSD（湿気に敏感な部品）やはんだペーストは、乾燥保管から出すと劣化が進み、戻せば止まります。管理すべきは「開封からの経過時間」ではなく **出ていた時間の累積**です。出し入れが 5 回あれば 5 回分を足す必要があります。

参考：www.qualikeep.com - 持ち手なしの間はタイマーを止めて累積として管理できます

この記録票の位置づけ: 部品の暴露時間を記録するための様式です。吸湿状態や実装後の品質を 保証するものではありません。ペーキングの要否・条件は、メーカー資料および J-STD-033 等の規格に もとづき使用者の責任で判断してください。

会社名を記入

床上時間 管理票

FLOOR LIFE / EXPOSURE RECORD

記録番号

記録日

記録者

作成	確認	承認	部門長
日付	日付	日付	日付

1 部品・材料情報

部品名 / 型番	
ロット番号 / 数量	
拠点・ライン	
MSL レベル 1～6 / はんだペーストは該当なし	☐ 1 ☐ 2 ☐ 2a ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 5a ☐ 6 ☐ 該当なし
許容される床上時間 メーカー資料の値	
保管条件 乾燥庫の温度・湿度	
防湿袋の開封 開封日時・開封者・湿度インジケータ	

2 取り出し・戻しの記録（暴露時間はここを足し算します）

#	取り出し日時	戻し日時	この回の暴露時間	累積の暴露合計時間	累積の残り許容 - 累積	担当者 / 室温・湿度
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						

※ 累積の出し方と記入例は **2 枚目**。行が足りなければ 1 枚目を追加して # を続けてください。

3 ベーキング（乾燥）の履歴

#	開始	終了	温度 / 担当
1			
2			
3			

※ ベーキング後は累積をリセットする運用が一般的ですが、**回数の上限や条件は規格・メーカー資料に従ってください**。リセットした場合は1枚目の表に「ここでリセット」と明記します。

4 最終判定

累積の暴露 合計	
判定	☐ そのまま使用可 ☐ ベーキング後に使用 ☐ 使用不可（廃棄）
判定者 / 日時	

5 この様式の使い方（記入例つき・現場に貼っておく用）

「累積の残り」の出し方（手計算）

この回の暴露 = 戻し - 取り出し

累積の暴露 = 前の行の累積 + この回の暴露

累積の残り = 許容される床上時間 - 累積の暴露

例）許容 168 時間。1 回目に 6 時間、2 回目に 4 時間 出していたら 累積 10 時間、**残り 158 時間**。

- ・この 2 列が手書きで一番崩れます。行が増えるほど前の行を足し忘れます。
- ・許容時間はメーカー資料の値を使ってください。ここに一般値は書きません。

記入例（許容される床上時間を 168 時間としたとき）

#	取り出し	戻し	この回の暴露	累積の暴露	累積の残り	担当者 / 室温・湿度
1	4/2 08:15	4/2 14:15	6:00	6:00	162:00	山田 / 24℃ 48%
2	4/3 09:00	4/3 13:00	4:00	10:00	158:00	山田 / 25℃ 51%
3	4/5 10:30	4/5 12:00	1:30	11:30	156:30	佐藤 / 23℃ 45%

※ 3 行目の「累積の暴露」は **10:00 + 1:30 = 11:30**。前の行を見ずに書くところはずれます。 人名・数値はすべて記入例です。

記入のポイント

- ・取り出したその場で「取り出し日時」を書く。後から思い出して書くと累積が合いません。
- ・戻したときに同じ行の「戻し」まで埋めて締める。開いたままの行を残さないのがコツです。
- ・室温・湿度も記録してください。暴露の影響は環境で変わるため、不具合が出たときに効きます。
- ・防湿袋の湿度インジケータの色は開封時に確認し、1 のセクションに残してください。
- ・その日のうちに埋めるのが一番強い証拠になります。後からまとめて書いた記録は、 監査で「後追い記入では」と見られます。